

素敵に輝け！

3年生発 あいさつ運動

先月のこと。朝、3年生の子供たちが玄関前に並んで大きな声で挨拶をし始めました。また、昼休みには、職員室前の廊下や階段に立って大きな声で挨拶をし始めました。突然の「あいさつ運動」です。聞くところによると、国語の「班で意見をまとめよう」の学習で、「全校のみんながさわやかなあいさつをするような取組」について話し合ったことで、「あいさつ運動をしよう」ということになったそうです。そして、「3年生発 あいさつ運動」が始まったのでした。

「素敵に輝け！第3号」で、「金山っ子は挨拶名人。だけどもう一步踏み出してほしい」と伝えました。「金山小の子供たちは」と一括りにした場合は、「挨拶が上手」だと自信をもって言えますが、一人一人の挨拶ではと言うと、目が合わず声が小さくて形式的であったり、自分から言えなかったりと、まだ恥ずかしがっている様子も窺えます。

最近感じていることは、「すぐ見える所にも、挨拶をしないことがあるんだな」ということです。すれ違うときや相手が近づいて来るときには挨拶をしますが、少し離れていると声をかけることを遠慮しているように見えることがあります。

話を戻します。3年生も改めて一人一人の様子を見て感じたのか、「あいさつ運動」を行う理由を「みんながさわやかなあいさつをできるように」と明確にし、「自分のあいさつを振り返ってみましょう」とアンケートまで配付しました。

「やると決めたのは自分たち」という思いがあったのでしょうか。校舎内外で3年生の大きな挨拶の声が聞こえました。

企画委員会のあいさつ運動へと

3年生からの自主的なあいさつ運動は、その後、児童会の企画委員会の「レベルアップ！あいさつ週間」と銘打ったあいさつ運動に引き継がれました。このあいさつ運動では、企画委員が「目をつないで自分からあいさつ」「立ち止まっておじぎをしてあいさつ」の目標を示し、目標を守れた日はシールを貼る方法で意識付けました。

期間中、教頭先生は毎日子供たちの登校の様子を観察し、気づきを班長会議で伝えたり、先生方にも伝えたりして、全校のみんなが挨拶について再検証しました。

3年生からはじまったあいさつ運動が、その後、企画委員会のあいさつ運動に引き継がれ、先生も一緒になって取り組んだのです。

だんだんよくなってきたよ

2学期途中、毎朝、校門前で立哨をしてくださっている地域の方から、「あの子、前は大きな声であいさつしとったけどな」という言葉を聞きました。声が小さくなってきたなと感じておられたのでしょうか。ちょっと残念でした。それが、あいさつ週間中に、「最近、あいさつの声、大きくないけ」と言ってもらいました。「はい。実はあいさつ運動を・・・」と説明すると、「そんながやろ。上手になったわ」と褒めてもらいました。でも、「これが続けばいいがね」とも言われました。確かにそう思います。

玄関にミニチュアののぼり旗を立てました。そこには、「『してよかったな』と思えるあいさつをかわしましょう」「あいさつ名人は、『しようかな。どうしようかな』と迷いません」の言葉を入れました。気持ちのよいあいさつが「身に付き、当たり前になること」を期待しています。